

H23年度 利活用推進勉強会について

1. 利活用推進勉強会について

■ H22年度の勉強会の位置づけ

- 災害リスク情報等の各種利活用場面について意見交換し、今後のニーズや課題を把握するための勉強会

 この役割は継続

■ 加えて、この度の東日本大震災での教訓を今後の活動に反映すべき

- ・東日本大震災での取り組みを通じて、明らかとなった災害リスク情報等へのニーズ・課題
- ・今後の大災害に対して準備すべき事項(今後の展望、備え)

■ H23年度の勉強会の位置づけ

- 東日本大震災における災害リスク情報等の利活用場面から、ニーズ、課題、今後の展望について意見交換を行う場とする

■ 勉強会での議論の取りまとめ

- ・既存の防災WGにおける活動(データ流通基盤、規格化等)への反映
- ・防災WGにおける新たな活動項目の抽出

1. 利活用推進勉強会について

■ 勉強会の基本的な進め方

- 勉強会は事前登録制(毎回募集)とし、テーマに興味のある方であれば参加自由
- テーマの設定及び話題提供者の調整は事務局が実施 ※選定の考え方は後述
- 話題提供者は1回につき2～3者程度を基本
- 勉強会は2時間とし、話題提供:20～30分/1者、意見交換:10～20分/1者を基本として実施(話題提供者数による適宜調整)
- 有意義な意見交換を行うために、参加希望者については、テーマについての簡単なコメントを提示してもらった上で参加いただく。(コメントについては非公開を前提として、意見交換時の参考として活用)
- 勉強会は1回/1ヶ月の開催を基本に計画
- 今年度の勉強会は、3～4回の開催を計画

2. 話題提供者選定の考え方(1)

■ 選定の考え方① :

技術的な特徴や利用場面に特徴を有すること

(利用技術や対象分野・場面毎のニーズ・課題を把握するため)

<技術的な特徴の例>

- 情報の作成(付与) ex. プローブ情報の活用
- 情報の収集 ex. SNSからの情報収集
- 情報の加工・分析 ex. 衛星画像による浸水エリア抽出
- 情報の可視化 ex. 3次元表示、AR活用
- 情報の共有・提供 ex. GoogleMapsでの表示やKML形式での提供

<特徴的な場面の例>

- 被害状況の把握: 市民から収集した情報の活用
- 被害状況の把握: センサや情報技術の活用
- 帰宅困難者支援、安否確認支援
- BCPに係る対策(インフラ対策の事例含む)
- 防災教育・リスクコミュニケーション
- 民間等における応急対応・復旧復興支援
- 国・自治体における応急対応・復旧復興支援
- 産学官連携における応急対応・復旧復興支援

2. 話題提供者選定の考え方(2)

- **選定の考え方②** : **様々な立場から、それぞれの視点でサービス等を実施していること**
(それぞれの立場毎のニーズ・課題を把握するため)

<立場の違いの例>

- 産……………民間事業者等による利活用事例
- 官……………国や自治体による利活用事例
- 学……………大学、研究機関による利活用事例
- 産官学連携……異なる主体が連携して活動した事例

	行政(官)	産学官連携	民間または研究機関(産・学)
事前	【サービス・事例】 ・ハザードマップの公表・提供	【サービス・事例】 ・防災教育	【サービス・事例】 ・各企業等のBCP対策
	【主な課題・特徴の例】 ・ハザードマップ整備率の向上、・想定と実被害の乖離	【主な課題・特徴の例】 ・災害リスク情報の伝え方	【主な課題・特徴の例】 ・BCP策定率の向上、想定と実被害の乖離
直後	【サービス・事例】 ・被害報の公表 ・ 災害情報タイムライン(消防庁)	【サービス・事例】 ・産学官連携による被害情報の集約・可視化	【サービス・事例】 ・帰宅支援サービス ・ 減災レポートマップ(ウェザーニューズ)
	【主な課題・特徴の例】 ・情報をGIS等で集約するための人手不足	【主な課題・特徴の例】 ・行政との協力体制の確立 ・二次利用可能な形式での情報交換	【主な課題・特徴の例】 ・一般市民からの幅広い情報収集 ・リスク情報の重畳や被害情報の重畳による高度表示
復旧・復興	【サービス事例】 ・通行規制情報の提供 ・被災者の支援システム	【サービス事例】 ・ALL311東日本大震災(防災科研) ・EMTによる災害関連情報の収集・調査結果の可視化	【サービス事例】 ・通行実績情報の公開(ITS JAPAN) ・ ライフラインの復旧情報のマッシュアップ(東大等)
	【主な課題・特徴の例】 ・二次利用可能な形式での情報提供	【主な課題・特徴の例】 ・情報技術を活用した復旧支援(罹災証明支援等)	【主な課題・特徴の例】 ・リスク情報の重畳や被害情報の重畳による高度表示 ・情報の信頼性確保
復旧・復興時には様々な主体で多様な情報が作成されていたが、それを利用するためにどこで何が公開されているのかを周知するための仕組み			

2. 話題提供者選定の考え方(まとめ)

- 防災WG関係者等からの自薦・他薦による事例、事務局調査にて有望と考える事例を整理
- 前述の考え方(1)、考え方(2)に照らし、勉強会における話題提供対象を選定
- 話題提供者の都合等を踏まえ、最終決定
- 話題提供者のスケジュール等で、勉強会で話題提供いただけない事例については、事務局側でヒアリング等を実施し、内容を把握(結果は別途防災WGや部会等で提示)

■今回の勉強会の話題提供者

	話題提供者	テーマ	技術・場面の特徴	立場
1	東京大学生産技術研究所 都市基盤安全工学国際研究センター 准教授 加藤 孝明氏	防災情報マッシュアップシステムによる情報提供	・空間情報のマッシュアップ技術 ・二次利用可能な形式での提供	学(民や官情報の活用)
2	総務省 消防庁 国民保護・防災部 防災課 小林 弘史氏	災害時におけるツイッターの活用(災害情報タイムライン)	・ツイッターを活用した情報提供	官
3	株式会社 ウェザーニュース 取締役 石橋 知博氏	減災に向けた取り組み(減災レポートマップ 他)	・市民からの情報収集 ・情報のカテゴリ分けによる効果的な情報提供	民

利活用推進勉強会のスケジュール(案)

	H23年度						
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利活用推進勉強会		第3回 10月19日 14:00～	第4回 11月18日 13:00～	第5回 12月16日 10:00～	第6回 調整中	とりまとめ	

< 次回勉強会【第4回会:11月18日(金) 13:00～15:00】 >

- ・ 防災科学技術研究所による災害支援活動
- ・ ITS JAPAN による通行実績マップの提供
(その他、もう1名程度の話題提供者を予定)

(参考) 利活用推進勉強会の位置づけ

新たに「利活用推進勉強会」を設け、災害リスク情報等の流通のための課題等を議論する。

